

益城町の一日も早い 復旧・復興を願って

益城町議会議長 稲田 忠則

町民の皆様には、新春をお迎えのこ
とと心よりお慶び申し上げます。

日頃から町議会に對しまして温かい
ご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し
上げます。

昨年4月14日午後9時26分、16日午
前1時25分、2回の震度7という前代
未聞の地震が益城町を襲い、30名の尊
い命が奪われ、また重軽傷を負った方
が150名近くに上り、家屋の全半壊
が7,000件にも達した平成28年熊
本地震から8か月を経過しました。

被災された町民の皆様は、仮設住宅
やみなし仮設住宅での不自由な生活の
中、本年の正月を迎えられていること
とお察し申し上げます。

発災当初、18名の議員が一丸となっ
て地域に張り付き、町民の皆様の安否
確認や安全確保、生活の確保に向けて
頑張っていました。仮設トイレの
設置、仮設住宅の建設、公費解体等々
の迅速な推進、その時々により町民
の皆様が被災生活の安定に向けて行政
と一緒に対応してまいりました。

昨年の12月議会では益城町復興計画
も承認され、町民の皆様を主役とする
益城町の復旧復興に向けた道筋が示さ
れました。復興計画は10年計画として
今後実施されていくこととなります。

町議会と致しましても町民の皆様の
生活を第一に考え、行政と一体となっ
て町の復興に取り組んでまいります。

さて、昨年の世界を振り返ります
と、アメリカ合衆国の大統領選挙を
はじめ、日本に影響のある事柄が多々
あった年でした。日本でも熊本地震
をはじめ各地で地震が頻発し、阿蘇
山をはじめとする火山の噴火や異常
気象による豪雨被害など暗いニュー
スが多かったように思います。

また、国政においては、安倍内閣
の長期安定政権や県選出国会議員の
重要ポストへの登用など、熊本とし
ては地震の対応に有利に働くことにな
りました。

そんな中、益城町はまさに生き残
りをかけた正念場を迎えているとい
っても過言ではありません。

町議会と致しましても、厳しい財
政運営のなか、一日も早い益城町の
復旧復興のために、あらゆる部門で
皆様のご意見を拝聴しながら、

国・県に向かって益城町の
現状を訴え、町民の皆様に
少しでもお役にたてるよう
全力を傾注してまいる所存で
ございます。

今後とも、町議会に對しまして、

一層のご指導とご協力を賜りますよう
心よりお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年が町民の
皆様にとりまして復旧復興の一年とな
り、普段の生活を取り戻されることを
心よりご祈念申し上げ、新年のごあい
さついたします。

平成29年 新春

